

来年度のより良い活動に向けて意見交換

令和2年度 朝日自然塾連絡協議会

朝日庄内森林生態系保全センターでは、平成18年度より、朝日山地に関係の深い団体と協力をし、小中学生の親子等を対象に、朝日山地とその周辺をフィールドとした体験型森林環境プログラムを「朝日自然塾」と銘打って実践してきました。

今年度は2つのプログラムが中止になるなど、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けましたが、1月19日（土）、山形市のあこや会館において朝日自然塾連絡協議会を開催し、関係団体と来年度に向けた活動について協議をしました。



開催の挨拶

当日は非常な悪天候となりましたが、出羽三山の自然を守る会、山形県山岳連盟、山形県溪流釣り協議会、山形県内水面漁業協同組合連合会、西川町大井沢支所、鶴岡市朝日庁舎といった関係6団体、国有林職員（関係各森林管理署、朝日センター）の出席により協議を行いました。

開会に先立ち、悪天候により欠席となった東北森林管理局間島森林整備部長の「当自然塾が森林の中での体験や学びを通して生きる力を育てる場となり、ひいては地域の活性化

につながるよう、プログラム策定の議論をいただきたい」との挨拶をセンター所長が代読しました。

事務局から、新型コロナウイルス感染症対策を含めた今年度のプログラムの実施状況と中止に至ったプログラムの経緯について、来年度のプログラムの策定についての基本的な考え方と具体的なプログラム案について説明をし、各団体の代表者から今年度の実施状況を踏まえた意見や、来年度のプログラム内容に関する具体的な提案などをいただきました。



会議全景

最後に朝日センター笠井所長から「本日の会議でいただいた提案等を反映させ、来年度の朝日自然塾の活動をより良いものにしていきたい」との閉会の挨拶により終了となりました。